

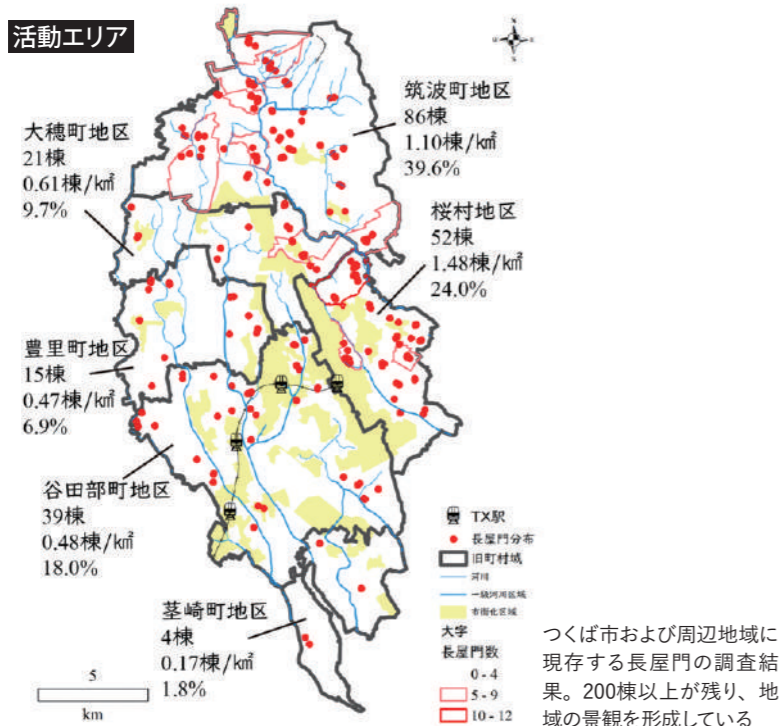
NPO法人 つくば建築研究会 (継続)

茨城県つくば市

地域資産「長屋門」の維持継承で地域の景観づくりと振興に寄与する活動



2024年1月、つくば市北部に位置する漆所地区に残る長屋門を見学



団体設立経緯

つくば市は建築博物館と言われるほど、有名建築家による現代建築が多く、それがまちの魅力の1つとなっています。2005年につくばエクスプレスの開業によって新しい住人が増えたことを機に、その魅力を調査・収集し、本の出版やシンポジウムの開催などの事業を通して発信するために、建築関係者を中心とした団体を立ち上げました。つくばの景観の向上と発展を目的としています。

活動概要と活動対象範囲

設立当初は、建築物のガイドブック「つくば建築フォトファイル」を編

集・出版し、中心市街地の建築物を紹介することやシンポジウムを通じて、まちの魅力を広く発信する活動を中心に展開してきました。しかしながら、活動を続けていく中で、千年以上の歴史と文化を有する周辺市街地にも魅力があることに気付くようになり、特に市内に200棟以上が現存する「長屋門」を含む伝統的な景観の維持と継承に焦点を移しました。

活動に至った理由や背景

2005年に「つくば建築フォトファイル」を出版した後、主催する年次シンポジウムで、周辺市街地の魅力に触れる機会がありました。この経験から古民家の調査に着手し、市内に200棟以上の長屋門が現存していることを知りました。さらに、筑波大学の地域・建築計画研究室との共同調査を通じて、長屋門所有者(以下「もん主」という)が抱える維持・継承に関連する課題や利活用の実態を明らかにしました。これにより、もん主との関係を築き、現在は郷民が所有する長屋門の維持・継承活動を積極的に推進することに至りました。

活動内容と成果

i. 「長屋門みち」ルートマップの作成事業

◇成果

22年度に作成した3ルートの経験と反省を踏まえて、今年は5つの新たな「長屋門みち」ルートマップ案を作成しました。一般参加者と共にイベント形式でこれらのルートを歩きながら、つくば市民にもあまり知られていない地域特有の歴史や文化、言い伝えなどに触れる機会がありました。このイベントで得られた情報を取り入れることで、5つのコース案の完成度向上を試



2023年度最初の「長屋門みち」ルートの検証。花畑城址を見学



7月には佐地区の長屋門3棟、小泉地区の3棟などを巡った

みました。

さらに、今年是一般参加者から1回あたり参加費2000円をいただき、長屋門の改修費用に充てることとしました。具体的には、建設会社への工事代金やDIYに必要な資材購入費などに使用しました。結果的に、5回のみちあるきイベントで一般参加者延べ60名、参加費は合計11万円となりました。この資金は、23年度の活動の1つである「郷邸米倉床張り」に活用、スギの無垢材の購入代金に充てました。

◇活動内容

i-i. 【2023年6月17日】一の矢、若森コース

当日は気温が30度を超える猛暑の中、一般参加者7名とスタッフ2名の合計9名で、つくばセンターからコミュニティバスを利用して約25分をつくばウェルネスセンターを出発地として、一般参加者10名、スタッフ5名の合計15名で約7kmの距離を歩き、江戸時代後期に筑波山信仰で栄えた北条までのルートを通り、八坂神社を13時に出発しました。

ルートには花畑公園の花畑城址土塁跡、四ツ塚の長屋門、鹿島台からの宝篋山ほうきょうざんの眺め、柳町ファーム、滝町の長屋門群、親鸞ゆかりの常福寺、天台宗千光寺などが含まれており、これらを巡りました。もっくん珈琲でコーヒープレイクを取り、若森の縣庁舎跡や長屋門も歩きながら見学しました。その際に得た情報も取り入れ、最終的に「一の矢、若森コース」(案)が完成しました。

i-ii. 【7月15日】佐、北条コース

つくば市の中心市街地の北端に位置し、つくばセンターからコミュニティバスを利用して約25分をつくばウェルネスセンターを出発地として、一般参加者10名、スタッフ5名の合計15名で約7kmの距離を歩き、江戸時代後期に筑波山信仰で栄えた北条までのルートを通り、佐の3棟、